

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092700026		
法人名	特定非営利活動法人 なかまと		
事業所名	グループホーム「てととと和合」		
所在地	長野県東筑摩郡麻績村日4769 - 1		
自己評価作成日	平成21年11月3日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092700026&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092700026&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

衣食住すべての面において、自宅で生活しているような状況になるべく近い生活が送れるように心がけている。利用者は、自分の思いを言葉で表現することが少ないので、日頃の会話や、表情、態度から察知するようにし、思いを受け止め、生活に反映できるように心がけている。
認知症の高齢者は、夜間のケアが大切であり、人でも必要であるが当施設では、夜間ケアを2人体制とし、安心感をもってもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは山懐にあり庭先に流れる麻績川の清流の音が爽やかに聞かれ、居ながらにして四季感が味わえる自然豊かな地に設置されている。特定非営利活動法人を母体を持ち、理事長の適切な運営管理体制のもと管理者・職員が一体となってホームのサービスの質の確保と向上に努められている。なお宅老所と併設して連携を図りながら常に入居者の気持ちに向かい合い、寄り添いながらのケアに努められ、一人ひとりの力量や可能性を見極めるとともに、思いや希望を把握して実現に向けた支援がされている。今年度は入居者全員の希望を乗せ上越海岸への旅を満喫できたことを伺った。また地域の中学生や知人・友人の訪問受入れ・運営推進会議・家族会開催により地域との支え合う関係性の構築に努められ、入居者が大変明るく会話も弾み豊かに過されている。
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念を職員全員で話し合うことで、職員が同じ目標に向かい理念を共有し、実践につなげることができるように進めている。</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割を考慮したわかりやすいホーム理念を作成し、職員全員で話し合い共有を図り、ケアサービスの実践に活かされている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日々の生活の中で、散歩などで地域の方との会話を楽しみ、野菜を頂いたり、三九郎などの行事に参加させていただいている。また、ホームの行事などを通じて地域とのかかわりを持つように心がけている。</p>	<p>地域の行事(三九郎・文化祭等)や地域の中学生の訪問による交流、ホーム行事(クリスマス会・花見・母の日・父の日・敬老会等)などにより入居者が培ってきたご家族や地域社会の関係の継続を大切にされた支援に努められている。</p>	<p>今後更に地域の方々を招いての行事を工夫されて地域住民との交流に努められるよう期待する。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の行事や集まりがあるときは、積極的に参加し、認知症に対する理解や支援について話しをしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の運営会議で取り上げられた検討課題の経過説明をしたり、現在取り組んでいる内容などを伝え、質問・意見などをもらうようにしている。</p>	<p>運営推進会議において、ホーム内に発生した感染症の終息までの経過や今後の対応策と課題についての報告及びホーム活動状況、利用状況報告等が行われている。なお今後の検討課題について出席者より質問、要望、意見を頂き双方向的な会議となっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>利用者の実状を伝え、困難事例においては相談し協力をさせていただけるようにしている。又認定更新時などは、日頃の生活の様子などを伝え、連携を図るようにしている。</p>	<p>市町村担当者へのホームからの情報提供を行うとともに、利用者の実情を伝え困難事例について課題解決にむけ協力が得られるよう取組まれている。</p>	

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠することなく、個々が自由に入り出ることができるようにしている。	調査訪問時玄関には施錠はされていないなかった。職員は入居者の外出する場面や行き先を把握されており、入居者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしに向けた支援に配慮されている。	今後近隣の方々へホームへの理解を求め、見守りや声掛け等、連絡がいただけるような関係づくりに期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の疲労やストレスは虐待につながることもあるので、職員の状態を把握するよう心がけている。 又日頃からの言葉使いや態度などに、職員同士が関心を持つことで、注意をはらうようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はケースがないので、これからの検討課題として、研修などの機会を持ち学んで行きたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書やサービス加算文書など、家族にわかりやすいよう十分な説明を心がけるとともに、疑問点などには、納得、理解いただけるように時間をかけて説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のご家族へのお便りを送ったりご意見を伺ったり、家族会などを利用しご意見をいただき、運営に反映させるようにしている。	毎月担当者よりご家族へ入居者の現況が綴られた便りの発信や家族会、運営推進会議への出席の折に、ご家族より意見、要望を頂き、職員間で話し合わせサービス提供場面に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングはもちろんの事、日々の勤務の中や休み時間などの会話での意見や提案などを聞き、日々の業務の中に反映できるようにしている。	ミーティング時にテーマ(休暇、研修等)を決めて話し合いが持たれている。管理者は日頃からコミュニケーションを図る努力をされており、職員から出された意見や提案を運営に反映されている。	

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議やミーティング、面接などを通して状況把握をし、職員環境改善に努めている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への周知、参加を進めている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などの交流の機会を増やし、資質向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との初回面接を大切にし、本人の要望や思いを大切にしていくことで、安心感と信頼感を持っていただけるような関係作りにつとめている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より家庭内での状況を聞くことで、ご家族の思いを理解し、要望や不安に耳を傾けるなど、関係作りをしている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とに信頼関係を築くように配慮しているが、病院などからの退院により、早急な対応が必要な場合の本人の気持ちなどの対応に苦慮している。		



外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する、されるということなくお互いが協力しながら、本人の思いを大切に、穏やかに安心して暮らせるように、支えあえる関係作りに配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者さんの様子や、ホームでの出来事などをお知らせする「家族通信」により、個々の状況をお知らせし、本人を支えていくための協力関係を築けるように支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や知人との交流や、自宅の仏壇に手を合わせに行くなど、継続的な交流が出来るように配慮している。	知人や友人のホーム訪問を積極的に受け入れ交流を図り地域社会との接点を持ちながら関係性の継続に努められている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握すると共に、個々に話を聞いたり、皆で楽しく過ごせる時間をつくり、又職員も一緒にお茶を飲んだりし、利用者同士の関係を注意深く見守るようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても、様子を聞いたり訪問をしたりするようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声かけや表情から本人の意思や思いを推測したり、意思疎通が困難な方においては、家族などから情報を得るようにしている。	日々寄り添いの支援の中での声掛けや表情の把握より入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。なお意思疎通が困難な入居者については、ご家族より情報を得よう配慮をされている。	日頃入居者への寄り添いのサービス提供時に得られる何気ない「つぶやき」を書き留め職員間で共有を図り、思い、意向、希望の実現に繋がることが望まれる。

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子を知ることとはとても大切な事なので、本人をはじめ、家族などに聞きながら状況把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、出来ないことより出来ることを大切に、本人全体を把握できるように努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を職員全員が把握し、状況の変化により全員で話し合い、介護計画に反映させている。	入居者の担当職員により生活目標が立てられるとともに、毎月送付の便りに寄せられるご家族の意向を職員全員で話し合い介護計画に反映されている。なお入居者の状況変化に応じた介護計画の見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をし、体調や暮らしの様子、そのときの言葉や表情、変化などを記録し、職員が情報を共有できるようにして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の場合の通院は、臨機応変に対応している。 又遠方よりお越しの家族の方には、食事を一緒に取っていただくなどしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さん定期的に訪問していただいたり、地元のグループに来てもらうなどして、楽しむようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居後も、今までのかかりつけ医を変更せずに、必要に応じて受診し、普段の様子や変化を伝えるようにしている。</p>	<p>入居者、ご家族の希望を踏まえて、かかりつけ医への受診支援が行われている。必要に応じ(村内や地域)受診には職員があたり入居者の日常の状況や変化について情報提供をされている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の変化など見逃さないよう、早期発見に取り組み、変化に気がついたときには看護師への報告をし、医療につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時職員が見舞うなどの方法を取り、病状の把握をし、退院支援に結び付けている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族会などにより、家族との話し合いを持ち、当ホームとしてできることを十分に説明しながら、今後のことを考えるように支援に取り組む努力をしている。</p>	<p>家族会や運営推進会議において看取りについて課題に取り上げられ検討中である。医療連携が難しい地域性の中にあり、入居者、ご家族と話し合いを重ね、ホームとして対応し得る最大の支援方法を踏まえ、ご家族の意向を第一にした方針について話し合われている。</p>	<p>終末期のあり方について、日頃より入居者やご家族と話し合い、重度化に伴う意思確認書を作成し、ホームが対応し得る最大のケアについて説明が行われることが望まれる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>夜間等緊急マニュアルを作成し、周知徹底をはかっている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っているが、内1回は地域住民の方に参加していただき、協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の対応マニュアルが作成されており、年2回の避難訓練が行われている。なお1回は地域住民に参加を頂き協力体制が築かれている。</p>	<p>夜勤に当たられる前に各自シミュレーションをされる等により、いざと言う時に慌てず確実な避難誘導が出来るよう日頃からの取り組みが望まれる。</p>

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという思いを忘れず、本人の気持ちを大切に、さりげない援助が出来るように心がけている。	入居者は職員と親しみを持って会話を持たれており違和感を感じられなかった。入居者一人ひとりに合わせた対応に気配りをし、言葉掛けや対応に配慮をされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分からの発言が難しいが日々の会話の中で、行きたい場所や希望などを聞き逃さないようにして、自己決定ができるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりの気持ちを大切に、個人対応に努めているが、入浴や行事はスタッフの都合に合わせることも少なくない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分の意思で更衣をするが、自己決定が難しい方には、職員と一緒に考えるなどして、本人の気持ちに寄り添えるように支援を心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアと一体的な作りになっている台所での調理で、音、匂い等を感じてもらい食欲を高め、皆が参加できるような献立を考えて、一緒に調理し、張り合いや自信につながるようにしている。職員と一緒に食事をし会話を楽しんでいる。	入居者の嗜好の把握や、身体状況に合った食事形態への配慮に努められている。訪問日には職員と共に炬燵を囲み、寒い季節に喜ばれる具材満載のお鍋料理に入居者は会話も弾み楽しみながら食されていた。食卓に出されたおにぎりや具材の下ごしらえを手伝われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや食事量を把握し、水分摂取や食事量の少ない方には、嗜好品や食べやすい(飲みやすい)物などで、対応するよう工夫している。		



外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを職員全員が理解し、本人の力を把握しそれに応じた口腔ケアを、毎食後行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を察知して声かけ、手を差し伸べたり歩行介助することで、紙パンツやパットを使用している、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	日常の関わりの中で入居者の習慣や様子を把握しており、スムーズな排泄支援ができています。なお排便についてはチェックリストを活用して身体状況の把握に努められています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の中でも食物繊維を取れる工夫をし、水分摂取や運動など体を動かすことも大切にし、排泄を記録していくことで、排泄のパターンを理解し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は職員の都合に合わせてしまうことが多いが、入浴を嫌がる方には言葉かけや対応を工夫したりして、個々にあった入浴の介助をすることで、ゆっくりとした時間を過ごしてもらえるように心がけている。	現在2日置きの入浴支援が行われ入居者一人ひとりに合った入浴介助に努められています。なお入浴を拒まれる入居者にはタイミングを見ての言葉掛けや対応に工夫することで気持ちよく入浴が出来るよう支援されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の疲れ具合を把握し、それにより休息をとるなど個別対応に努めている。又日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に処方箋が入っているので、職員はいつでも内容確認することが出来るようにし、服薬は本人に渡し、きちんと服薬できているか確認、服薬が出来ない方には職員が介助し、処方に変更があった場合には、状態変化の観察に心がけている。		

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や台所と、一人ひとりが力を発揮してもらえる場を作り、必ず感謝の言葉を伝えるようにして、張り合いのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気のよい日には散歩など、歩行が大変な方も車椅子などを利用し、なるべく外へ出るようにしている。又年1回の日帰り旅行などを企画するなど、積極的に外へ出れるように支援している。	暖かな日には自由に散歩に出かけられている。しかし寒い季節を迎えての外出が困難になるためサンルームを設置し、居ながらにして豊かな自然を眺めストレス解消への工夫がされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	小額にて家族からお金を預かって、自己管理されている方もある。 お金を払う場面では、自分で払っていただくことで、お金を払う満足感やお金を持っている安心感が得られるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人からの電話は子機を使うなどして、他の利用者さんに聞こえないように配慮したりしている。又手紙を頂いたら返事を書いたり、かけない方には代筆するなどしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは台所と一体的なつくりとなっているため、食事準備の音、匂いなどを感じ、窓から見える景色に季節を感じるなど生活観や季節感が感じられるように配慮している。	居間と台所が一体的な使用に設置されており、生活感が肌で味わえるとともに、窓外に望める景観より季節感が得られる工夫がされている。季節がら入居者は炬燵を囲み談笑されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや台所は一体的なつくりとなっているため、全体が見渡しやすいので、常に見られているような圧迫感が感じられる。そのため回りにソファを置いたりし、休める場所を作っている。		

外部評価結果(グループホーム「てととと和合」)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの馴染みの物が持ち込まれている方、持ち込みもあまりない方もいるが、家族の写真や思い出の写真など飾るようにし、安心して暮らせる場所作りをしている。	入居者の馴染みの生活用品や家族写真・思い出の作品(押し花、布で作られた干支等)が持ち込まれ、思い思いの居心地よく過ごせる居室づくりをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部の環境は、出来る限り変えないようにしているが、変更があったときは経過観察をし、職員間で話し合い、不安や混乱を招かないように配慮し、自立した生活が送れるように支援している。		